

名寄市の概況

1 位置・地勢

本市は、北・北海道の長流天塩川が形成する名寄盆地のほぼ中央に位置し、東は雄武町と下川町、西は幌加内町、南は十勝市、北は美深町と接しています。その市域は、東西に約30km、南北に約35kmの四角形に近い形となっており、535.23kmの行政面積を有しています。

道路は南北に国道40号、東側に国道239号が通り、また鉄道は南北に宗谷本線が走っており、古くから交通の要衝として幅広い生活圏域を形成した本市は、道北圏の中心都市として発展してきました。

気候は、日本海気象の影響を受ける内陸部に属していることから寒暖の差が激しく、夏の温度差は60にも及びます。夏季は昼夜の温度差が大きく、冬季は寒気が厳しく降雪量も多い気象条件を有しています。

2 沿革

風連地域は明治32年、旧村名「多寄村」の名称のもとに剣淵村外3カ村戸長役場の管轄に入ったことにはじまり、風連村を経て昭和28年の町制施行で風連町になりました。

名寄地域は明治33年、山形県東田川郡東栄村（藤島町を経て鶴岡市）の有志により曙地区に開拓の跡が下ろされて以来、上名寄村、名寄町を経て、昭和29年に旧智恵文村と合併後、昭和31年に北海道内21番目の市として市制を施行しています。

こうした中で、古くから地理的・人的・財政的基盤を強化する必要の高まりを背景に、平成16年3月に「法定合併協議会」を設置し、さまざまな事務事業の擦り合せとともに住民説明会を重ね、平成18年3月27日に新設合併して「名寄市」が誕生しました。

3 人口・世帯

総人口は減少傾向で推移していますが、世帯数にはあまり変動がなく、核家族世帯や単独世帯が増加していることが推測されます。

経年変化を平成12年から平成17年の間でみると、年少人口の割合が13.7%から12.8%、生産年齢人口においても64.9%から62.7%へ減少しているのに対し、老年人口の割合は21.4%から24.5%へ増加しており、本市においても少子化と高齢化が進行しています。（グラフ参照）

4 産業別人口

産業別人口をみると、平成17年の就業人口総数に対する割合は第1次産業12.1%、第2次産業19.2%、第3次産業が68.7%となっており、平成7年以降の総体就業率は横ばいで推移していますが、第1次産業の減少と第2次・第3次産業の増加が進んでいます。

■ 総論

人口の推計と目標

1 総人口

平成28年の目標年次人口を2万8000人と想定します。

本市の総人口は、現状のまま推移するとすれば、平成17年の3万1628人から、平成28年には約2万8000人に減少すると推計されます。

今後も交流人口の拡大によるまちの活性化に努めるとともに、子育て環境や生活環境基盤の整備、定住環境の整備、保健・医療・福祉環境の充実など、総合的なまちづくりを推進しなければなりません。（グラフ参照）

2 年齢3階層別人口

人口に関する問題として、総人口の減少とともに、高齢化がさらに進むことが予想されます。

年少人口は微減に止まるものの、高齢化率は平成17年で24.5%であったものが、平成28年には30.0%まで達することが予想され、少子化対策や高齢者医療などの費用が増加すると見込まれます。

また、生産年齢人口である15歳～64歳は、平成17年の1万9

将来人口の推計

843人（62.7%）から平成28年には1万5915人（57.4%）まで大幅に減少するとみられ、地域経済の活性化対策が重要な課題となります。（グラフ参照）

